

【科目名】	総合臨床作業療法学	専門分野(2単位)	【講師名】 櫻井直人(作業療法士):医療機関にて17年実務経験 吉田翔太(作業療法士):医療機関にて13年実務経験				
【講義期間】	3年次後期		【対象学生】第3学年 作業療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 ~ (他時間割参照)				
授業内容・目標	作業療法の主要な研究方法について学ぶ 3年間で学んだ作業療法に関する知識を復習する						
前提知識	作業療法に必要な検査・評価方法の理解						
【実施形態】	講義(○)	演習()	実習()				
到達目標	研究に必要な基礎知識を習得し、具体的な研究計画を立案出来るようになる						
成績評価基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○				
	知識・理解		○				
	思考・推論	○	○				
	実践・表現	○	○				

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	研究倫理、研究法の概論、EBM、研究の種類 シングルケースのデザイン	臨床研究に関する倫理指針、エビデンス、調査研究、事例研究、実験研究 症例研究と症例報告(ABデザイン、ABAデザイン、ABABデザイン など)	吉田
	2	データの区分(尺度の種類)	質的尺度(名義尺度・順序尺度)、量的尺度(間隔尺度・比率尺度) データの信頼性と妥当性(バイアス)	吉田
	3	代表値、検定	代表値(中央値、最頻値、平均値 等) パラメトリック検定(t検定、分散検定)、正規分布、ノンパラメトリック検定 (Mann-Whitney検定、X ² 検定、Whilcoxon符号付き順位検定)等	吉田
	4	帰無仮説と検定の手順	帰無仮説の成立 検定の手順(p値と有意水準)	吉田
	5	研究のデザインとエビデンス	メタアナリシス、ランダム化比較試験(RCT)、コホート研究(前向き・後向き) ケースコントロール研究、前後比較研究	吉田
	6	疫学研究(介入研究と観察研究)、検査の有効性	横断研究と縦断研究等、独立変数と従属変数、感度と特異度、スクリーニング テストの評価(ROC曲線)、疫学の定義に使われる用語	吉田
	7	1~6のまとめと評価・研究計画書の書き方について①	確認テスト(国家試験レベルの問題) 研究計画の基礎的理解	櫻井
	8	1~6のまとめと評価・研究計画書の書き方について②	確認テスト(国家試験レベルの問題) 研究計画の基礎的理解	櫻井
	9	リサーチ・クエスチョンの作り方①	診療上の疑問を研究可能な形にするととは?	櫻井
	10	リサーチ・クエスチョンの作り方②	診療研究のご法度とPECO(PICO)	櫻井
	11	リサーチ・クエスチョンの作り方③	研究計画書の作成	櫻井
	12	まとめと評価(卒業試験)	症例を通じて学んだ基礎知識、専門知識 作業療法を行う上で必要な知識全般	全教員
	13	まとめと評価(卒業試験)		全教員
	14	まとめと評価(卒業試験)		全教員
	15	まとめと評価(卒業試験)		全教員
教科書 参考書	国家試験対策に必要な教科書 標準作業療法学 作業療法研究法(第2版)、必修ポイント2023基礎OT学			
授業に必要な物	授業内にてPCを使用予定			
備考	必要物品については、各担当教員に確認すること			

【科目名】	作業療法管理学	専門分野(2単位)	【講師名】	橋本円(作業療法士):医療機関にて15年実務経験			
【講義期間】	3年次後期		【対象学生】	第3学年 作業療法学科			
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】	: ~ : (他時間割参照)			
授業内容・目標	作業療法士として現場で働くために、関連する制度や業務内容、管理・運営について理解する。						
前提知識	OT概論Ⅰの知識						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	職業倫理について理解する。作業療法に関連する倫各制度を理解する。 作業療法の記録や報告の重要性に気付くことができる。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		100				
	実施時期		第16回				
	補足						
	関心・意欲	○					
	知識・理解	○	○				
	思考・推論	○	○				
実践・表現	○	○					

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
	1	企業について	管理運営の実際	儀間先生 森川先生 田中先生
	2	作業療法臨床実習の理解と管理体制	変遷にみる「臨床実習」、診療参加型臨床実習、指導体制	儀間先生 森川先生 田中先生
	3	養成教育と卒後教育	養成教育制度(カリキュラム、臨床実習)と卒後教育(専門・認定制度)	儀間先生 森川先生 田中先生
	4	作業療法の理論①	ICF、基礎理論	儀間先生 森川先生 田中先生
	5	作業療法の理論②	実践理論、作業分析	橋本
	6	医療倫理	医療に関する法律、療法士法、職業倫理、インフォームドコンセント、守秘義務	橋本
	7	作業療法をとりまく諸制度①	医療保険、介護保険、診療報酬	橋本
	8	作業療法をとりまく諸制度②	障害者総合支援法	橋本
	9	作業療法をとりまく諸制度③	就労支援	橋本
	10	作業療法をとりまく諸制度④	地域包括ケアシステム、生活行為向上マネジメント	橋本
	11	医療の質とリスクマネジメント	医療の質(患者満足度、リハビリテーションにおける質的保障)リスクマネジメント(ヒヤリハット、インシデント、アクシデント、吸引)	櫻井
	12	他職種連携と地域連携	療法士が連携すべき他職種、連携のありかた、医療現場における療法士のあり方	橋本
	13	業務管理	組織体制、施設基準、療法士の業務、組織マネジメント	橋本
	14	作業療法の記録と報告	記録の目的と種類(SOAP、生活行為向上マネジメントシート、PDCAサイクル、ジェノグラム)、記録、報告の実践	橋本
	15	総復習	作業療法管理に関する復習	橋本
	16	まとめと評価	作業療法に関する制度や業務内容、管理・運営について理解ができる	橋本
教科書 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法概論 第3版 医学書院			
授業に必要な物	PC・プロジェクター・他 事前に確認すること。			
備考				

【科目名】	職業関連活動援助技術	専門分野(1単位)	【講師名】 佐藤こず枝先生(精神保健福祉士) 長谷川敬先生(精神保健福祉士) 吉田翔太(作業療法士):医療機関にて13年実務経験				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】第 3学年 作業療法学科				
【時間数】	15時間 (2時間 8回)		【時間帯】 : ~ : (時間割参照)				
授業内容・目標	障害がもたらす職業生活の支障について理解する。 職業関連領域の評価の目的および日本における職業リハビリテーションについて理解する。						
前提知識							
【実施形態】	講義(<input type="radio"/>)		演習(<input type="checkbox"/>)		実習(<input type="checkbox"/>)		
到達目標	職業関連活動における作業療法士の役割を理解する。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)				100		
	実施時期				平時・当科目終了時		
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
実践・表現	○			○	○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月2日	1	職業関連活動総論	職業関連活動とは、障害者の就労制度、就労移行支援事業 職業能力適性の評価 他	吉田
4月3日	2	就労支援・評価について	適性検査・GATB	吉田
4月3日	3	就労支援・評価について	適性検査・GATB	吉田
4月16日	4	まとめ	障害者の就労制度、就労支援事業、適性検査・GATBほか(国試対策)	吉田
4月17日	5	障害者就労移行支援について	施設概要・就労支援について	佐藤こず枝先生
4月17日	6	就労支援事業の実際	オルタナティブでの就労支援について	長谷川先生
4月30日	7	就労支援事業の実際	障害者の職業リハビリテーションとは、障害者雇用の現状、障害者特性と就労のポイント	佐藤こず枝先生
4月30日	8	障害者就労支援の実際	職業選択と就職活動、職リハで求められているOTの専門性	佐藤こず枝先生
教科書 参考書	標準作業療法学 専門分野 作業療法評価学			
授業に必要な物	PC・プロジェクター その他			
備考				

【科目名】	福祉・機器活用援助技術Ⅱ	専門分野(1単位)	【講師名】 伊藤彰先生(作業療法士):医療機関にて27年実務勤務 吉田翔太(作業療法士):医療機関にて13年実務経験				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】第 3学年 作業療法学科				
【時間数】	30時間 (2時間 15回)		【時間帯】 : ~ : (時間割参照)				
授業内容・目標	・住環境支援の概念および実践(基本的知識、住環境評価・介入)について学び、理解する。 ・自助具の概念及び実践(疾患との適合、作製)について学び、理解する。						
前提知識	・各疾患の病態および症状や特徴の理解(自助具)						
【実施形態】	講義(○) 演習() 実習()						
到達目標	・住環境支援の概念を理解し、住環境評価・介入ができる。 ・各疾患に対し、自助具の適切な選定の視点を身に付ける。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		90		10		
	実施時期		13回目		終了後		
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解		○		○	○	
	思考・推論					○	
実践・表現					○		

授業計画				
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
4月2日	1	自助具(概要・計画)	自助具についての理解	吉田
4月8日	2	自助具(作成)	自助具作成	吉田
4月8日	3	自助具(作成)	自助具作成	吉田
4月9日	4	自助具	発表会	吉田
4月9日	5	自助具についての理解(疾患別)	疾患別の自助具	吉田
4月10日	6	福祉機器の理解	脳卒中患者の福祉機器	吉田
4月10日	7	住環境整備について	住宅の機能、日本の住宅の特徴、住宅が具備すべき性能、住宅改修に必要な情報、住宅改修の考え方と工夫、場所別の住宅改修の要点、	吉田
4月16日	8	住環境整備について	車いす(手動車いすの各部名称、車いすの走行に必要な開口幅、介護保険制度)	吉田
4月16日	9	住環境整備の手段と基本的配慮	福祉用具(移動補助具、入浴関連用具、更衣・整容関連用具、トイレ関連用具、食事関連用具、家事支援用具、各種スイッチ、その他)、各種体験	吉田
4月17日	10	住環境整備の手段と基本的配慮、福祉機器の理解	障害別住宅改造・福祉用具、脊髄損傷の福祉機器	吉田
4月19日	11	図面作成	図面作成	吉田
4月19日	12	図面作成	図面作成	吉田
4月22日	13	まとめ	福祉機器に関連する理解	吉田
4月23日	14	福祉機器活用の実際	福祉機器とは、適合範囲、使用方法、3Dプリンター	伊藤先生
4月23日	15	福祉機器活用の実際	福祉機器とは、適合範囲、使用方法、3Dプリンター	伊藤先生
5月2日	16	まとめと評価	配布資料・授業内に実施した演習問題をよく復習しておくこと	吉田
教科書 参考書	作業療法学 ゴールド・マスター・テキスト 福祉用具学(メジカルビュー) OT・PTのための住環境整備論 第2版(三輪書店)			
授業に必要な物	PC・プロジェクター			
備考				

【科目名】	地域作業療法学総論	専門分野(4単位)					
【講師名】	鍋倉 実先生(作業療法士) 北林 明子先生(看護師) 上邨 まゆみ先生(看護師)						
	櫻井 直人(作業療法士):医療機関にて17年実務経験	橋内 駿(作業療法士):医療機関にて8年実務経験					
	橋本 円(作業療法士):医療機関にて15年実務経験	角山 亮祐先生(作業療法士)					
【講義期間】	3年次前期	【対象学生】	第 3学年 作業療学科				
【時間数】	60時間 (2時間 15回)	【時間帯】	: ~ : (他時間割参照)				
授業内容・目標	地域作業療法の基本理念を学ぶ 地域作業療法における、各対象領域の実際を学ぶ						
前提知識	作業療法に関わる各論						
【実施形態】	講義(○) 演習(○) 実習()						
到達目標	地域におけるチーム医療を理解し、その中で作業療法の役割を理解する。 各論を踏まえたうえで、地域における作業療法の流れを理解し、評価や実施方法がわかる。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)		30	30	30	10	
	実施時期						
	補足					グループワーク・実習	
	関心・意欲	○		○	○	○	
	知識・理解	○	○	○	○	○	
	思考・推論	○		○	○		
実践・表現	○		○	○	○		
授業計画							
日付	回数	テーマ	講義内容・キーワード				講師
4月1日	1	地域作業療法総論	地域、アセスメント～マネジメント、制度・施策など				櫻井
4月1日	2	生活行為向上マネジメント①	生活行為向上マネジメント(MTDLP)とは				橋本
4月1日	3	生活行為向上マネジメント②	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編①				橋本
4月2日	4	地域作業療法各論①	病院(身体機能領域、精神機能領域)、診療所(クリニック)				櫻井
4月2日	5	生活行為向上マネジメント③	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編②				橋本
4月3日	6	生活行為向上マネジメント④	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編③				橋本
4月4日	7	生活行為向上マネジメント⑤	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー基礎編④				橋本
4月4日	8	地域作業療法各論②	介護老人保健施設、介護老人福祉施設				櫻井
4月4日	9	地域作業療法各論③	通所介護施設、通所リハ、訪問作業療法				櫻井
4月8日	10	予防教室に向けて	評価の実践				櫻井
4月9日	11	地域作業療法各論④	地域包括ケアシステム、地域包括支援センター				橋内
4月10日	12	地域作業療法各論⑤⑥	⑤発達と教育(学童保育のコンサル)、⑥認知症支援と在宅(終末期)				橋内
4月11日	13	地域作業療法各論⑦	地域生活移行(ACT:包括的地域生活支援プログラム)				橋内
4月12日	14	地域作業療法各論⑧	就労支援(高次脳機能障害、IPSなど)				橋内
4月12日	15	在宅医療について	一次予防、二次予防、三次予防とは?				櫻井
4月15日	16	実技試験:精神OSCE	精神障害領域における評価の実践				OT学科 教員
4月15日	17	実技試験:精神OSCE					
4月18日	18	在宅医療について	一次予防、二次予防、三次予防とは?				櫻井
4月19日	19	生活行為向上マネジメント⑥	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編①				角山先生
4月19日	20	生活行為向上マネジメント⑦	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編②				角山先生
4月22日	21	地域包括支援センターについて	地域医療の実際①				北林先生
4月22日	22	地域包括支援センターについて	地域医療の実際②				上邨先生
4月24日	23	訪問リハビリテーションの実際	訪問看護ステーションの役割と訪問リハビリ①				鍋倉先生
4月24日	24	訪問リハビリテーションの実際	訪問看護ステーションの役割と訪問リハビリ②				鍋倉先生
4月25日	25	生活行為向上マネジメント⑧	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編③				角山先生
4月25日	26	生活行為向上マネジメント⑨	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編④				角山先生
4月26日	27	まとめと評価	地域作業療法における知識の確認				櫻井
4月30日	28	実技試験:身障OSCE	身体障害領域における評価の実践、治療の実践				OT学科 教員
4月30日	29	実技試験:身障OSCE					
5月10日	30	健康祭り / 介護予防	予防教室の実際①/他職種連携、包括的なりハビリテーションの実際				櫻井
5月10日	31	健康祭り / 介護予防	予防教室の実際①/他職種連携、包括的なりハビリテーションの実際				櫻井
授業に必要な物	PC・プロジェクター その他						
備考	生活行為向上マネジメント(MTDLP):ケーススタディー応用編は臨床実習ⅠのケースをMTDLPでまとめるため資料の用意が必要						

【科目名】	臨床実習Ⅱ-①(学内演習)	専門分野 (8単位)	【講師名】 櫻井直人(作業療法士):医療機関にて14年実務経験 その他作業療法学科教員				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】 第3学年 作業療法学科				
【時間数】	360時間		【時間帯】 9:00~17:00				
授業内容・目標	指導者の元、作業療法の対象者に対して、基本的作業療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。自己の作業療法士としての自覚を高めることが出来るよう、各施設の臨床現場で実習を実施する。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した作業療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義(○)		演習(○)		実習(○)		
到達目標	職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的作業療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	50		20	20	
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○		○	○	
	知識・理解	○	○		○	○	
	思考・推論	○	○		○	○	
	実践・表現	○	○		○	○	

授業計画				
	日数	テーマ	講義内容・キーワード	講師
5月24日	1	演習の流れ確認	療法士面接、高次脳機能障害の推測、脈拍と血圧	櫻井
5月25日	2	知識の確認	関節可動域測定	櫻井
5月26日	3	評価の見学・知識の確認	筋力測定、形態測定	櫻井
5月27日	4	評価の見学・知識の確認	整形外科疾患別測定	櫻井
5月28日	5	評価の見学・知識の確認	筋の触診、反射検査	櫻井
5月31日	6	評価の見学・知識の確認	感覚検査	櫻井
6月1日	7	評価の見学・模倣	反射検査、感覚検査	櫻井
6月2日	8	評価の見学・模倣	脳神経検査、片麻痺機能検査	櫻井
6月3日	9	実践練習	評価総合	櫻井
6月4日	10	実践練習	評価総合	櫻井
6月7日	11	実践練習	評価総合	櫻井
6月8日	12	実践練習	評価総合	櫻井
6月9日	13	OSCE(評価)	療法士面接、高次脳機能障害の推測、脈拍と血圧、関節可動域	櫻井
6月10日	14	実践練習	評価総合	櫻井
6月11日	15	OSCE(評価)	感覚検査、反射検査、移乗	櫻井
6月14日	16	実践練習	評価総合	櫻井
6月15日	17	実践練習	評価総合	櫻井
6月16日	18	OSCE(評価)	筋力測定、形態測定、腱反射・病的反射	櫻井
6月17日	19	治療の見学・模倣	関節可動域運動、筋力増強訓練	櫻井
6月18日	20	治療の見学・模倣	促通手技、振り子運動	櫻井
6月21日	21	治療の見学・模倣	部分荷重練習、物理療法	櫻井
6月22日	22	治療の見学・模倣	呼吸練習、排痰手技、音練習、摂食嚥下練習	櫻井
6月23日	23	治療の見学・模倣	ポジショニング、起き上がり	櫻井
6月24日	24	治療の見学・模倣	起立・着座、移乗	櫻井
6月25日	25	治療の見学・模倣	車椅子駆動、歩行	櫻井
教科書 参考書	それぞれに必要な文献、教科書等			
授業に必要な物				
備考	教員とコミュニケーションを取りながら各疾患についての理解を深めていくよう行動すること。			

【科目名】	臨床実習Ⅱ-①(学内演習)	専門分野 (8単位)	【講師名】 櫻井直人(作業療法士):医療機関にて14年実務経験 その他作業療法学科教員				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】第3学年 作業療法学科				
【時間数】	360時間		【時間帯】 9:00~17:00				
授業内容・目標	指導者の元、作業療法の対象者に対して、基本的作業療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。自己の作業療法士としての自覚を高めることが出来るよう、各施設の臨床現場で実習を実施する。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した作業療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義(○)		演習(○)		実習(○)		
到達目標	職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的作業療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	10	50		20	20	
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○	○		○	○	
	知識・理解	○	○		○	○	
	思考・推論	○	○		○	○	
	実践・表現	○	○		○	○	

授業計画					
	日数	テーマ	講義内容・キーワード	講師	
	6月28日	26	治療の見学・模倣	歩行、食事、更衣	櫻井
	6月29日	27	実践練習	治療総合	櫻井
	6月30日	28	実践練習	治療総合	櫻井
	7月1日	29	実践練習	治療総合	櫻井
	7月2日	30	実践練習	治療総合	櫻井
	7月5日	31	実践練習	治療総合	櫻井
	7月6日	32	実践練習	治療総合	櫻井
	7月7日	33	OSCE(治療)	関節可動域運動、促通手技、起き上がり	櫻井
	7月8日	34	実践練習	治療総合	櫻井
	7月9日	35	OSCE(治療)	起立・着座、更衣(上衣)、更衣(下衣)	櫻井
	7月12日	36	症例のまとめ	治療経過の記録	櫻井
	7月13日	37	症例のまとめ	動作観察	櫻井
	7月14日	38	症例のまとめ	最終評価の記録	櫻井
	7月15日	39	症例のまとめ	最終評価の記録	櫻井
	7月16日	40	症例のまとめ	サマリー作成	櫻井
	7月19日	41	症例のまとめ	結果の整理	櫻井
	7月20日	42	症例のまとめ	結果の整理	櫻井
	7月21日	43	演習の振り返り	全体のまとめ・フィードバック	櫻井
教科書 参考書	それぞれに必要な文献、教科書等				
授業に必要な物					
備考	教員とコミュニケーションを取りながら各疾患についての理解を深めていくよう行動すること。				

【科目名】	臨床実習Ⅱ-①	専門分野 (10単位)	【講師名】 櫻井直人(作業療法士):医療機関にて17年実務経験 OT学科教員				
【講義期間】	3年次前期		【対象学生】 第 3学年 作業療法学科				
【時間数】	360時間		【時間帯】 9:00 ~ 17:00 (他時間割参照)				
授業内容・目標	指導者の元、基本的作業療法を体験し実践する。また保健・医療・福祉の各分野の職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持った行動を身に付ける。						
前提知識	1年次から3年次までに修得した基礎分野、専門基礎分野、専門分野の知識全般。 1年次から3年次までに修得した作業療法評価法及び治療法の知識・技術全般 1年次から3年次までに修得したコミュニケーション能力、ルール、自発的行動等の社会性や実習生としての態度全般						
【実施形態】	講義()	演習()	実習(○)				
到達目標	職場における作業療法士の役割と責任について理解し、その一員として自覚を持つ。 1年次、2年次を通じての内容をさらに深め、基本的作業療法をある程度の助言・指導のもと行えるレベルになる。 保健・医療・福祉にかかわる専門職としての認識を高める。						
成績評価 基準と方法		意欲・態度	筆記試験	実技試験	課題提出	発表・ディスカッション	その他(確認試験)
	配分(%)	臨床実習 総合評価報告書 総合評価に基づく。					
	実施時期						
	補足						
	関心・意欲	○			○	○	
	知識・理解	○			○	○	
	思考・推論	○			○	○	
実践・表現	○			○	○		

授業計画			
	回数	テーマ	講義内容・キーワード
R7/5月中旬 ~7月中旬 9週間 (45日間)	1		
	2		
	3		
	4		
	5		
	6		
	7		
	8		
	9		
	10		
教科書 参考書	1年次から3年次まで使用した教科書・参考書類 その都度必要な文献・論文類		

臨床実習Ⅱ-①